医療関係者用

# HPVワクチン キャッチアップ接種1997～2007年度生まれの方へ

子宮頸がん予防

## 定期接種の年齢で接種機会を逃した女性に対して、2025年3月末まで「キャッチアップ接種」が実施されています。

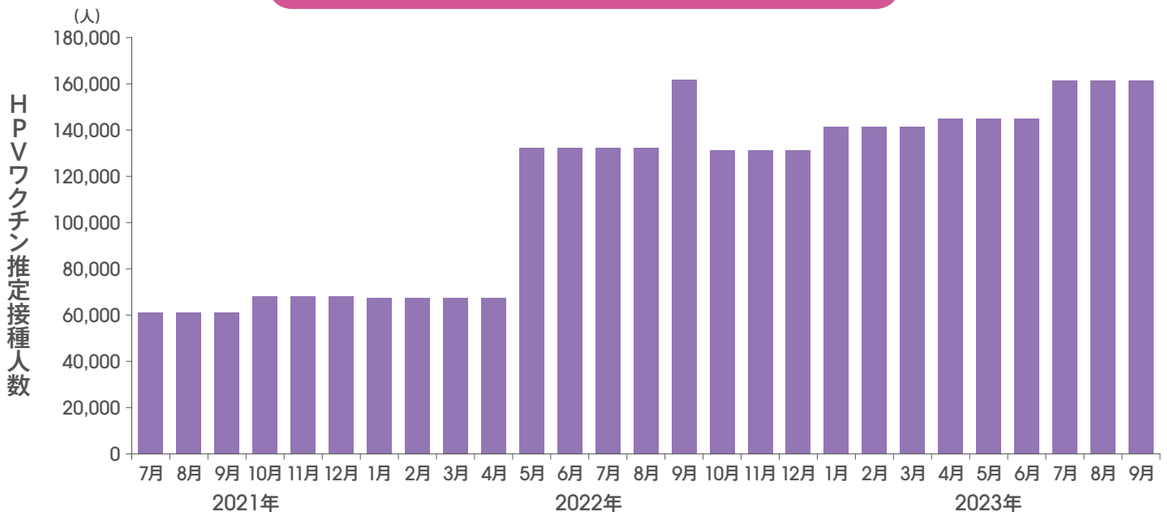
### 2024年度 キャッチアップ接種対象者[1)]

1997年度生まれ～2007年度生まれの女性
（1997年4月2日～2008年4月1日生まれ）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 2007年度生<br>16／17歳 | 2006年度生<br>17／18歳 | 2005年度生<br>18／19歳 | 2004年度生<br>19／20歳 | 2003年度生<br>20／21歳 | 2002年度生<br>21／22歳 |
| 2001年度生<br>22／23歳 | 2000年度生<br>23／24歳 | 1999年度生<br>24／25歳 | 1998年度生<br>25／26歳 | 1997年度生<br>26／27歳 | |

## HPVワクチンを接種する方は、徐々に増加しています。

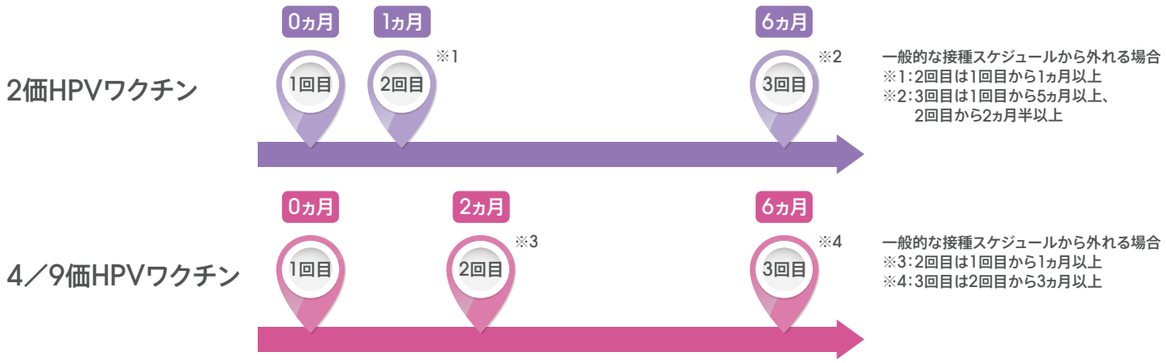
### HPVワクチン推定接種人数※（2024年1月公表）[3)]




※：推定接種人数（2価、4価、9価ワクチン合計）を報告期間の月数で除したものを、月別推定接種人数として計算した（2022年9月は単月）。

## 一般的な接種スケジュールの場合、接種完了までに6ヵ月かかります。

### キャッチアップ接種における一般的な接種スケジュール[2)]




3種類いずれも、1年以内に接種を終えることが望ましい。

## 子宮頸がんは、「HPVワクチン接種」と「定期的な子宮頸がん検診」で予防可能な疾患です。

- ワクチンは子宮頸がんを100％予防できるわけではありません。
- ワクチンを接種してもワクチンに含まれるHPV型以外のHPV感染およびこれらによる病変発症の予防は期待できません。
  ウイルスにはいくつかの型がありますので、感染していないウイルス型からの感染を防ぐことができます。
- ワクチン接種前に感染しているHPVを排除したり、すでに生じた病変の進行予防効果は期待できません。
- 20歳を過ぎたら子宮頸がんの早期発見、早期治療のために、定期的に子宮頸がん検診*を受けるようにしましょう。

＊：国の指針としては、20歳以上の女性において、2年に1回の子宮頸がん検診が推奨されています。
また、子宮頸がん検診の公費助成を行っている自治体もあります。


1) 厚生労働省 2022年3月11日 HPVワクチンに係る自治体向け説明会 資料「令和4年4月からのHPVワクチンの接種について」
https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/000911549.pdf (Accessed Feb. 5, 2024)
2) 厚生労働省 医療従事者の方へ～HPVワクチンに関する情報をまとめています～（2024年2月改訂版）より一部抜粋・改変
https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000901222.pdf (Accessed Feb. 5, 2024)
3) 厚生労働省 2024年1月26日 第100回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会 資料2-8、2-9、2-10 より作図
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000208910_00072.html (Accessed Feb. 5, 2024)

医療関係者用

# HPVワクチン（シルガード®9）を接種される方へ

子宮頸がん予防

## 子宮頸がんの主な原因は、ヒトパピローマウイルス（HPV）という、ごくありふれたウイルスです。

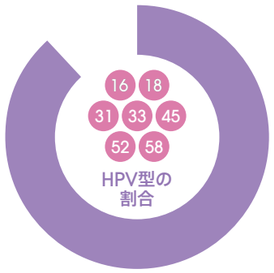
### 子宮頸がんの原因（海外データ）[1)]

子宮頸がんの95%以上は、
HPVの持続感染が原因です。

95%以上

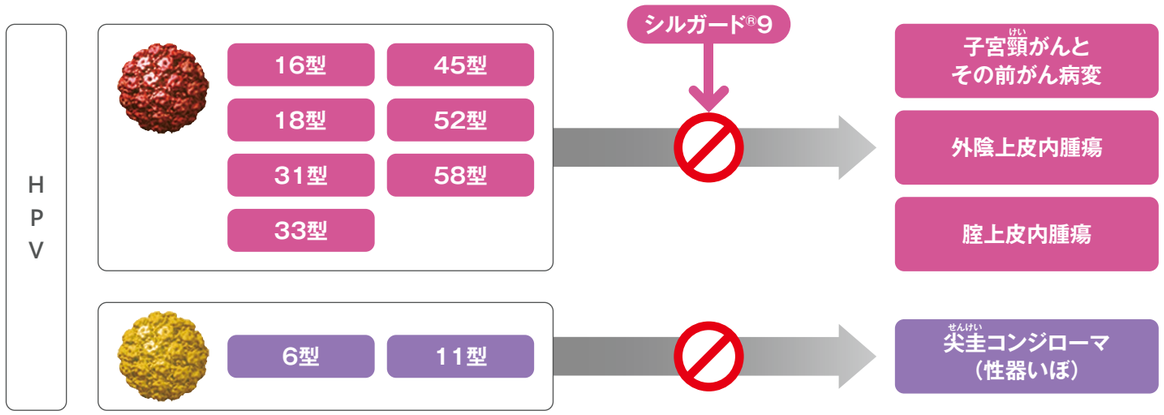
### 子宮頸がん患者さんから検出されたHPV型[2)]

日本人女性の子宮頸がん患者さんの
90.8%がいずれかのHPV型に感染しており、
そのうち88.2%からは、シルガード®9に
含まれるHPV16/18/31/33/45/52/58型が
検出されました。




88.2%

## シルガード®9は、HPV6、11、16、18、31、33、45、52、58の9つの型の感染を予防するワクチンです。この感染予防により、子宮頸がんとその前がん病変、外陰上皮内腫瘍、腟上皮内腫瘍、尖圭コンジローマの発症を防ぐことができます。




HPV6、11、16、18、31、33、45、52および58型以外のHPV型による病変については、予防効果は期待できません。

## 接種後に腫れや痛みなどの症状が長く続く場合には、医師にご相談ください。

### シルガード®9の副反応について

シルガード®9を接種した後に、接種した部分が腫れたり痛むことがあります。
これは、体の中でワクチン成分に対する反応が起こるための症状で、通常は数日間程度で治まります。

シルガード®9接種による主な副反応

| | |
|---|---|
| 頻度 10%以上 | 頭痛、注射部位の痛み・腫れ・赤み |
| 頻度 1～10%未満 | 体がふらつくめまい、のどの痛み、悪心（吐き気や胸やけ、胃がむかむかする）、下痢、注射部位のかゆみ・内出血・しこり、発熱、疲れ |
| 頻度 0.5～1%未満 | 上咽頭炎、インフルエンザ、おう吐、上腹部痛、腹痛、筋肉痛、関節の痛み、注射部位の出血・血腫・熱っぽさ・硬結・知覚低下、注射部位反応、だるさ、無力症（まぶたが下がる、物がだぶって見えるなど） |
| 頻度不明 | 蜂巣炎（皮ふ局所の痛みと熱を伴った赤い腫れ）、リンパ節の腫れや痛み、感覚の低下、気を失う、手足の痛み、寒気、注射部位の知覚消失 |

特に注意が必要な副反応
- 過敏症反応［アナフィラキシー（頻度不明）、気管支痙攣（頻度不明）、蕁麻疹（頻度不明）など］
- ギラン・バレー症候群（頻度不明）
- 血小板減少性紫斑病（頻度不明）
- 急性散在性脳脊髄炎（ADEM）（頻度不明）

### 接種後にふらつきや失神が起こる主な理由

注射を打ったときの痛み、恐怖、興奮などによる刺激が脳神経のひとつである迷走神経を介して中枢に伝わり、心拍数や血圧が下がったりすることがあります。そのため、気分が悪くなったり、めまいやふらつき、失神などが起こります。
これは、血管迷走神経反射とよばれ、注射後の失神が起こる主な原因と考えられています。血管迷走神経反射は思春期の女性に多いという報告がありますが、男性においても発生が報告されています。特に注射への恐怖心が強い方は注意が必要です。

### 接種後の3つの注意事項

**HPVワクチンの接種後に、めまいやふらつき、失神などが起こることがあります。転倒してけがをしないように、次の3つの注意事項を守ってください。**

① 接種後に診察室から待合室などへ移動するときには、看護師や保護者などに腕を持って付き添ってもらってください。
② 接種後30分程度は、背もたれや肘かけのあるイスなど、体重を預けられるような場所で待っていてください。
③ 待っている間は、なるべく立ち上がることを避け、座ってください。


1) WHO. Cervical cancer. 17 November 2023
https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/cervical-cancer (Accessed Feb. 5, 2024)
2) Sakamoto J et al. *Papillomavirus Res.* 2018; 6: 46–51.



MSD
製造販売元［文献請求先及び問い合わせ先］
MSD株式会社
〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア
https://www.msd.co.jp/



2024年2月作成
SIL24PA0012